

平成24（2012）年1月17日

# 2020東京オリンピック・パラリンピック実現に向けた 第1次提言

都議会民主党

2020オリンピック・パラリンピック東京招致推進PT

## まえがき

一昨年、東京都は1964年東京オリンピック以来となる半世紀ぶりの東京開催を目指し、2016年オリンピック・パラリンピック（以降、オリンピックと略す）の招致活動を開始し、コペンハーゲンでの最終選考において敗れました。成熟都市のコンパクトで環境配慮を重視した東京の開催計画は高く評価されたものの、南米大陸初の開催をうたったリオデジャネイロは、ブリックスの発展が目覚ましい今日において象徴的な都市であり、発展を望む多くの国々から共感と期待を得て、勝利を勝ち取りました。スポーツを通じて5大陸を平和の輪で結ぶオリンピックの理念に照らせば、南米大陸初の開催というスローガンが、成熟都市の強みを標榜した計画以上に、開催の歴史的必然性を与えたことは否めません。

オリンピック招致において、開催を目指す都市の持つ歴史的必然性は、強烈な磁力を伴って世界に発信され、IOC委員の関心を引き付けます。さらに、この磁力は都市住民や国民の情熱を加えることで倍加され、計画と情熱が共振した都市はオリンピック開催都市としての決定力を生むと考えられます。

成熟都市の東京が、前回の招致活動において最も苦勞したのは都市住民の情熱喚起でありました。CM、イベント、ポスターと、様々なアプローチで都民への働きかけを行ったものの、「なぜ東京でオリンピックを開催するのか」が伝わらず、都民の情熱を呼び覚ますには至りませんでした。

同じく成熟都市として3度目のオリンピック開催を実現するロンドンも、山積する大都市問題の解決策を描いた「ロンドンプラン」を発表し、オリンピック開発を通じた都市課題の解決策を見事に提示するとともに、近年のオリンピックが目指すレガシーを都市のなかに包み込み、合理化や近代化だけではないロンドンの魅力ある街づくりを提唱しました。

近年のオリンピックは、スポーツマンシップを通じた人類の相互理解と世界平和を提唱するだけでなく、世界平和の維持、発展のために欠かせない持続可能な社会づくりも目指し、環境とレガシーという理念によって、文化的で調和的な都市づくりをも希求しており、2020年大会も例外ではなく、この理念が求められていると考えます。

日本には環境保全に欠かせない技術が集積されているばかりか、日本人が身につけている「もったいない」精神をはじめ、自然界に畏敬の念を払ってきた世界に誇れる習慣・文化も持ち合わせています。私たちはオリンピックを通じて、世界から高い評価を受けている日本文化たるレガシーを呼び覚まし、この文化を世界に普遍化する試みのなかから、持続可能な社会づくりの提言を世界に対して発信していくべきでは

ないでしょうか。

大きな苦難に見舞われた日本人に、勇気と自信を取り戻すことが出来るとすれば、それは世界との相対化のなかで、日本人が紡いできた伝統と文化と、その両者から生まれた高い技術力を再認識し、世界の魁となって貢献する日本の役割を再発見することです。

日本の伝統文化を振り返る上で注目すべきは、華やかな江戸文化です。歌舞伎や文楽などの劇場が栄え、相撲が芸術的競技として昇華し、浮世絵がヨーロッパの印象派に多くの影響を与えたのも江戸時代でした。モノトーンの街並みを築き、水路を拓き、水辺を活かし、環境に配慮した都市設計を行ったのも江戸でありました。日本人が再発見すべき伝統文化は江戸にあるとの思いから「大江戸ルネッサンス」を掲げ、緑豊かな美しい東京で、オリンピック招致に挑むことを提案します。折しも、東京が招致に成功すればメイン会場は国立霞ヶ丘競技場になる公算が高まってきました。神宮外苑にある国立競技場は、来場者を神秘の空気で包みこみ、まさに百年の大計のもとに造り上げられた見事な景観美です。「大江戸ルネッサンス」にふさわしい舞台になると確信しています。

さらに、パラリンピック競技大会の開催は、障害者スポーツの発展だけでなく、バリアフリーやユニバーサルデザインの浸透によって、障害者が暮らしやすい社会を実現し、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生の社会像を提案できるものと考えます。具体的な提案については、第2次提言にてお示し致します。

私たちの使命は、オリンピックの壮大な舞台を通じて、世界に日本人が育んできた持続可能な社会像を提唱するとともに、心身を極める日本独特の柔道などの「道」の精神文化をスポーツに活かすことや、他者への思いやりによる世界平和の提唱を行っていくことです。

「大江戸ルネッサンス」が少しでも世界平和への貢献になることを祈って、この提言を申し述べます。

## 目次

### 1、 オリンピックのキャッチフレーズと生活を変えるキーワード …6頁

- オリンピックのキャッチフレーズ
- 「所得倍増計画」と東京オリンピック
- 経済効果の提示が必要
- 持続可能な社会に向けて－日本の「道」
- 「江戸」の文化を理念の柱に
- 国民からのアイデア募集

### 2、 震災とオリンピック、海外との絆 …8頁

- 「震災」と東京オリンピック
- 「一校一国運動」と東日本大震災
- 「一市一国運動」と練習キャンプ地招致
- 聖火リレーのルートには東北3県と東京の歴史を、そして広島・長崎の灯が一体化する
- 被災地でのスポーツ環境整備を
- 被災地への優先発注
- 友好都市との交流復活と活性化

### 3、 未来のスポーツ振興とオリンピックムーブメントを …10頁

- 誰もがスポーツに親しめる環境づくり
- 多摩地域で競技開催を

4、 世界への貢献 … 11頁

- スポーツを通じて世界各国の被災地を元気づける
- 日本の技術による海外貢献－海外からの水道研修受け入れ

5、 地方のおもてなしで更なる盛り上げを … 12頁

- 大会開催中の被災地特産品販売
- 地方の温泉旅館を活用してもらえる観光動線づくり
- 地方空港の有効活用
- 観光フリーパス券の発行

6、 臨海地域を巨大なイベントスペースに … 13頁

- 五輪開催中のアミューズメント・スペースにする
- 臨海地域にランドデザイナーをおく
- 日本の強み「ソフトコンテンツ」を活用したアミューズメントづくりを

7、 外国人旅行者にとっての東京づくり－江戸の観光ルネッサンス … 14頁

- 江戸の食文化ルネッサンス
- 交番に観光案内所の機能を

8、 東京の環境と景観を取り戻す－江戸の景観ルネッサンス … 15頁

- 2020年に東京の景観を取り戻す
- 東京湾の水質浄化
- 川の再生

○ 江戸情緒あふれるまちづくり

9、 エネルギー政策とオリンピック …17頁

- 持続可能なエネルギー政策の提言
- 大会開催中の車両は電気自動車に制限する
- 最先端の省エネ技術のPR
- 震災対策や技術の発信を

10、 都内の交通網をアピール …18頁

11、 日本をひとつにするテーマソング

12、 オリンピックの運営は、若者たちの「奉仕」で …19頁

13、 ロンドンオリンピックが招致の関ヶ原—ジャパンハウスは江戸情緒で

## 1、オリンピックのキャッチフレーズと生活を変えるキーワード

### ○ オリンピックのキャッチフレーズ

2016年招致活動の際に、議員がよく聞かれたのは「どうして東京じゃなければいけないのか」という質問でした。よく引用したのは「コンパクトで環境配慮の開催が出来るのは東京だから」という都庁の言葉でしたが、一人として大きく頷いた人がいなかったのは、「コンパクト」と「環境配慮」というキーワードが大会関係者向けのメッセージであって、都民そして世界に向けたメッセージではなかったからでしょう。

このオリンピックを通じて、東京の何が変わるのか、1つの大きなイメージを共有できるキャッチフレーズが欠かせません。同時に、そのイメージから自分の生活がどう変化するかをイメージできるキーワードが必要です。江戸から学ぶ環境とレガシーを打ち出すならば、「大江戸ルネッサンス」や「グリーン・オリンピック」も一案であると考えます。

### ○ 「所得倍増計画」と東京五輪

「所得倍増計画」は1960年に池田内閣のもとで閣議決定された経済成長計画のスローガンです。1955年から始まった東京オリンピック招致活動の正式なキャッチフレーズではありませんでしたが、4年後に控えた東京オリンピックの開催と「所得倍増」の掛け声は、共振し合っていたことでしょう。2020年大会に向けても、この「所得倍増」にも似た、壮大な国家的なメッセージが必要です。

そして、壮大なメッセージのもとに、子ども、若者、高齢者、障害を持つ人それぞれにとって、魅力あるメッセージが必要です。

### ○ 持続可能な社会に向けて－日本の「道」

世界は人類にとって危機的な環境破壊を前に、オリンピックを通じて持続可能な社会の在り方の提案を求めています。日本人には「もったいない」精神をはじめ、ものを大事にする固有の精神文化や道徳観を磨いてきました。独特の道徳観は日本の武道に多くみられます。アジアで最初のIOC委員となった嘉納治五郎氏が、講道館柔道を確立するに至るのは、古来より日本に伝わってきた「道」という考え方を、人類共通の人間道徳観として普遍化することを目的したからだと言われているように、「道」の思想は日本特有のも

のと考えられます。この「道」の思想は東京オリンピックのキーワードになるのではないのでしょうか。

### ○ 「江戸」の文化を理念の柱に

江戸時代において、江戸はパリに肩を並べる世界有数の大都市でした。その文化性の高さは訪れた多くの外国人の文献にも散見されるところです。特に江戸時代に開花した扇子や屏風、浮世絵などは、当時の日本人の美意識の高さを物語るもので、欧米人からの高い関心を呼んでいます。

泰平の時代を築きながら磨いた文化性の高い江戸美術は欧米人の関心を引くばかりか、風呂敷などに見られる環境配慮の思想が改めて評価されるものと確信します。

そこで、オリンピックを通じて、改めて江戸の文化、美術を再発見し、これを招致活動の中軸にすえてはどうでしょうか。

### ○ 国民からのアイデア募集

スポーツを通じて世界をつなぐオリンピックは、オリンピックを通じて国内を一つにする作用を持っています。オリンピックを通じて様々な施策が展開されるなか、国民の間にも、招致戦略や被災地支援策、街づくり計画、スポーツ振興策、障害者支援策など多くのアイデアが眠っており、これを喚起しない手はありません。今回、桜のリースをモチーフに作られた招致ロゴは美術大学の学生が作成したものでした。学生をはじめ多くの国民の関与を一層促進することは、みんなのオリンピックを演出する上で重要な働きかけであると確信しています。

そこで、都はオリンピックを通じて実現可能な政策提言を広く国民に募り、これを大会計画に反映させるだけでなく、「2020年の東京」などの長期計画に反映させていくべきではないのでしょうか。いわば「政策オリンピック」の試みによって、オリンピックは行政と国民との共同事業になっていくものと考えます。

被災地からも多くのアイデアが出現するものと期待しています。

## 2、震災とオリンピック、海外との絆

### ○ 「震災」と東京オリンピック

東日本大震災は、未曾有の津波を伴って壮絶な被害をもたらしました。その被害の甚大さに、残された日本人は再び立ち上がる勇気を失いかけたほどです。そんななかで勇気を与えてくれたのが、「Fight! Japan」の横断幕を掲げて行進してくれた世界の国々の人々です。物心両面で支えてくれた世界の人々への感謝の念に堪えません。日本がオリンピックを通じて、力強く復活した姿を示すことは、世界の支援への恩返しになるのではないのでしょうか。この震災を通じて、日本人は世界の人々と絆を感じることができました。

オリンピック招致活動を通じて、この絆を深めていく運動を展開できないものかと思います。

### ○ 「一校一国運動」と東日本大震災

一度、被災地でボランティアをすると、瓦礫を撤去した「あの家」の家族がその後どうなったのか、気になって仕方がないものです。大震災では多くの国々から、様々な支援を頂きました。こうした支援を下さった国の方々は、その後、自分たちが支援した地域がどのように復興しているか気にかけてくれているはずです。また、支援を受けた地域にとっては、支援の手を差し伸べてくれた国の皆さんに感謝の念を持つとともに、親愛の情を持ったはずです。そうした国の文化を学び、交流を深めることはできないのでしょうか。

98年の長野オリンピックで行われた国際交流事業に「一校一国運動」というものがありました。これは、五輪開催地の学校が、応援する国や地域の文化を学び、選手たちとの交流をはかる草の根運動で、IOCからも高い評価を受けたと聞きます。世界の人々の関心は、歴史的な津波被害を受けた地域や子どもたちに注がれています。支援を受けた「学校」や「自治体」と、支援を行った「国」や「地域」を結び、招致活動とともに交流活動が進むように、都としてコーディネートすることはできないのでしょうか。

### ○ 「一市一国運動」と練習キャンプ地招致

気仙沼市の大島は、「トモダチ作戦」で知られる米軍海兵隊の支援をいち早く受け、多くの住民がその支援によって救助されました。

それ以外にも多くの自治体が様々な国々から支援を受け、震災を縁に親愛の情を抱いたと聞きます。

支援した被災地がその後どうなったのか、支援した国や地域にとっても関心の高いところです。一校一国運動は、「一市一国運動」に進化させることが可能ではないでしょうか。支援を受けた自治体が9年後に力強く復興している姿を支援国に伝える努力は、感謝の念を伝える努力に他なりません。都のサポートのもと、被災地の自治体が9年後に支援国の選手団を招き、練習キャンプ地を提供できるよう、準備することは出来ないでしょうか。また、合わせて、全国の練習キャンプ候補地図などを作成して発表するのも、一つの案です。

#### ○ 聖火リレーのルートには東北3県と東京の歴史を、そして広島、長崎の灯が一体化する

オリンピック開催を東北3県の復興につなげようと、都は既に東北地方を走る聖火リレーを検討しているようです。平和の灯である聖火が、傷ついた東北3県の被災地復興へのシンボルになるものと確信します。そして、世界唯一の被爆国である広島、長崎とのルートをつなぎ、戦争と震災の歴史を忘れないルートにすべきでしょう。

また、灯が届けられる東京と東北3県には、様々な歴史的「ゆかり」が存在するため、そうしたゆかりを改めて探求し、ゆかり巡りの聖火リレーにすれば、都と東北のさらに強い絆が結ばれるものと考えます。

#### ○ 被災地でのスポーツ環境整備を

被災地の子どもたちは、校庭に仮設校舎が建てられたことによって、サッカーや野球ができなくなっています。都に招いてスポーツ大会を行うだけでなく、被災地でのスポーツ環境を整備することを通じて、オリンピック招致をPRしていくことを求めます。

#### ○ 被災地への優先発注

東日本大震災で多くの被災企業は売上を減らし、会社存亡の危機に瀕しているところもあります。そうした企業への支援につながるように、招致活動の事業の一部を被災企業に優先発注することはできないでしょうか。東京だけではなく、被災企業に仕事が回る仕組みづくりが必要と考えます。

### ○ 友好都市との交流復活と活性化

東京都の姉妹友好都市はすでに11都市あります。しかし近年、多くの都市との交流は活発でない面もあり、友好都市として十分な国際交流が図られているとは言えません。オリンピック招致実現に向け、積極的な国際交流が求められている今こそ、友好都市との交流事業を復活させ、活性化させることが必要と考えます。

## 3、未来のスポーツ振興とオリンピックムーブメントを

### ○ 誰もがスポーツに親しめる環境づくり

都内でオリンピックムーブメントを創出するためには、都民のスポーツへの関心を高めることや、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりが重要です。

全国や都内のアンケート調査結果では、スポーツをしていない、もしくは、やりたいのにしていないという人の多くは、「忙しくて時間をつくれない」「する場所が近くにない」などといった理由を持っているようです。したがって、例えばランニングができる遊歩道やスポーツ施設といったハード面での環境整備とともに、施設の利用のしやすさ、広報の徹底などソフトの面でも工夫を講じ、誰もが「気軽に」楽しめる環境を整えることで、生活の中の位置づけに、スポーツの優先順位を上げていくことが求められます。

特に、施設利用においては、外国人旅行者やビジネスマンから、日本のスポーツ施設は予約困難で、なかなか利用できないという声も多々聞かれるため、スポーツツーリズムを振興する観点からも施設運営の改善を求めます。

### ○ 多摩地域で競技開催を

前回招致はコンパクトオリンピックとしていたため、多摩地域では盛り上がりませんでした。都内全体の気運上昇には、多摩地域でも競技を行うことを明言し、都全体で共有できる土壌をつくる必要があります。

## 4、世界への貢献

### ○ スポーツを通じて世界各国の被災地を元気づける

日本だけでなく世界各地においても、トルコやニュージーランドの大地震、オーストラリアやタイの大洪水など、大規模な自然災害が発生し、世界の自然災害発生件数の年平均は、800件を超えるとも言われています。そこで、スポーツを通じた世界平和という観点から、そのような被災した国や地域にスポーツを通じた支援で希望を与えていく一大プロジェクトを展開してみたいでしょうか。

東日本大震災では、都による被災3県へのアスリート派遣事業など、子どもたちにスポーツを通じた交流を行い、希望を与えています。また、アスリートによる海外支援の事例でいえば、サッカー元日本代表の中田英寿氏が世界を飛び回り、発展途上国の子どもたちとサッカーを通じた交流や、その他様々な途上国支援を行っています。昨年5月には、彼らの企画によって、東日本大震災とタイ南部の洪水の被災者支援のため、日本人プロ選手やタイの選抜チームによる慈善試合をバンコクで開催し、多くの寄付金を集めました。

現在、アスリートの社会貢献意識は高まっており、社会活動を行うためのアスリートが集うコミュニティ団体まで立ち上がっています。そのような中、日本の国際貢献力を発揮させ、スポーツを通じた世界各国の被災地支援を五輪招致の一大プロジェクトとして実現させることは、五輪開催の大きな意義につながるはずです。

### ○ 日本の技術による海外貢献－海外からの水道研修受け入れ

東京には世界に誇れる水道技術がある一方で、世界には深刻な水不足に悩まされている諸都市が絶えません。水は人類が生きる上でかけがえのないもので、水を巡って紛争が起きることも珍しくありません。高度な浄化技術を有する東京は、平和を希求するオリンピックを通じて、水不足に直面する各国に水道技術の提供を図るため、海外の水道関係者を東京に招聘して、その技術を提供してはどうでしょうか。

## 5、地方のおもてなしで更なる盛り上げを

### ○ 大会開催中の被災地特産品販売

オリンピックの話題で被災地支援の話が出ると、多くの方から「東京がひとり勝ちするだけで、被災地支援につながらないではないか」とご指摘をいただきます。地方でシャッター通りが広がるなか、東京一極集中に対する不満は日々高まっていると言わざるをえません。そうしたご指摘には謙虚に耳を傾ける必要があります。過去に大阪が招致活動を展開しましたが、その時の東京は実に冷めたものでした。都と大阪が連携して行う「何か」がなかったからではないかと想像します。

東京オリンピック開催にあたっては、全国の自治体を巻き込むオールジャパンでの展開が必要不可欠です。例えば大会開催中には、都内の自治体それぞれが、友好都市の特産品を売り込む会場を競技会場周辺に設けるなど連携事業を展開するのも一案です。東京のなかに、日本の諸都市があると思うと、海外からの観光客も楽しめるのではないのでしょうか。

### ○ 地方の温泉旅館を活用してもらえる観光動線づくり

オリンピックは世界中の人々が一都市に集まる、世界一のイベントです。しかし、オリンピックを目当てに初来日した外国人にとって、魅力ある日本観光が出来るとは限りません。多くの場合は、高い宿泊料と混雑した交通機関によって、喧騒にもみくちゃにされながら帰国する羽目になるのではないのでしょうか。そこで、初めて来た外国人に、これだけは味わってもらいたい「日本の味」を吟選する必要があります。例えば、日本の旅館が織りなす和食と温泉の調和は、華美を抑えた日本の美意識を味わえる癒しの空間かと思われまます。都内ホテルの混雑を抑えるためにも、都は地方の温泉旅館を活用してもらえる観光動線づくりを積極的に行うよう求めます。

### ○ 地方空港の有効活用

国土の均衡ある発展の名のもとに、日本には83の空港が整備されています。しかしながら、多くの空港では利用者の減少から厳しい経営を余儀なくされており、その活路が見えません。東京オリンピックが実現した際には、羽田や成田の便は混雑が予想される一方で、国際線の航路を持たない地方空港は需要があっても活用できない可能性があります。オリンピック開催期間中に、茨城空港

など首都に近い空港を国際都市と結べば、地方空港の活用が図られると同時に、地方都市への利益還元にもつながります。開催期間中の地方空港の利活用を検討すべきと考えます。

#### ○ 観光フリーパス券の発行

また、大会開催中などは観光フリーパス券を発行し、定額で国内を旅行できる仕組みを作れば、より多くの外国人が地方都市を巡ることでしょう。

### 6、臨海地域を巨大なイベントスペースに

#### ○ 五輪開催中のアミューズメント・スペースにする

お台場周辺で一番外国人が集まっているところは、「大江戸温泉物語」と聞きます。7種類の図柄から選べる浴衣を羽織ったあとは、昭和の街並みが再現された横町でビールを片手に蕎麦をすすることができるのですから、外国人にとってカメラを手放せないプレイスポットであることは間違いありません。もっとも、2013年に借地契約が終了すれば、大江戸温泉物語は閉館してしまうことが想定されますので、これに代わり得る外国人観光客向けの施設を早急に誘致していく必要があります。都は現在、臨海部の未売却用地の公募を中止していますが、今後、コンベンションや国際観光等に資する施設の集積に向けて、積極的に取り組んでいくべきです。

また、合わせて、臨海副都心と羽田空港、主要な観光拠点とを舟で結ぶ舟運ネットワークも実現すべきと考えます。

#### ○ 臨海地域にグランドデザイナーをおく

ビッグサイトなどの展示施設を抱え、比較的空き地の多い臨海エリアは、大規模イベントを行うのに最もふさわしい土地として、高い利用価値があります。オリンピック開催に合わせて、全国から事業公募を行えば、様々な提案が集まるはずですが、その際に、細切れのイベント空間にならぬよう、グランドデザイナーを置き、一体的で魅力的なイベント空間にすることが重要です。

### ○ 日本の強み「ソフトコンテンツ」を活用したアミューズメントづくりを

五輪大会開催中は世界各国から多くの若者、子どもたちが東京にやってきます。東京ではこれまでも、アニメフェア、ゲームショー、映画祭、ファッションショーなど多くの若者を引き付けるイベントを開催し、注目を集めてきました。五輪開催にあたっては、海外の若者や子どもたちが日本のソフトコンテンツに触れる場を演出することも一案です。

そうしたアミューズメント・エリアとしての臨海地域について改めて検討するよう求めます。

## 7、外国人旅行者にとっての東京づくりー江戸の観光ルネッサンス

### ○ 江戸の食文化ルネッサンス

江戸の食文化は、日本人の長寿の源とも認知され、健康志向が広がる世界において高い評価を得ています。ニューヨーク、ロンドン、上海どこに行っても、江戸前寿司や焼き鳥などの和食が人気を博しています。芸術の域にも達した江戸の食文化は、多彩な食材の旨味を引き出しているだけでなく、漆塗りなど美を極めた器による盛り付けの芸術によって、世界の称賛を得ています。300万人の観光客を呼び込むオリンピックを通じて、和食が織りなす健康的な旨味と盛り付けの美を世界に発信していくべきです。

### ○ 交番に観光案内所の機能を

観光の魅力は「迷う」ことにあります。それがカオスといわれるアジア都市の魅力でもあります。迷うことで好奇心がくすぐられるといった人間心理が働くのです。この心理を設計思想に反映させたのが六本木ヒルズの開発だと言われています。敢えて、建物内を円の面の組み合わせにすることで、自分が何階にいるのか分からない、抜け出せない状況を生んでいるそうです。しかし、ストレスを感じながらも、目的地にたどり着けるのは、巧妙に配置された看板と案内所の存在に他なりません。迷うと必ず目の前にあるヒルズの案内所には感心させられます。

迷う、このことは東京の空間においても同様のことが言えるかもしれません。渋谷の街は駅から放射状に店舗が展開しているので、一度、駅に戻らないと目的地に到達しないという人がいました。しかし、外国人にとっては、迷いを楽しみつつも、一方で安心でき

るよりどころも必要になります。それが案内所です。都内には、都が運営する案内所が羽田空港、都庁舎、上野駅の3カ所にしかなく、渋谷で迷った外国人が逃げ込める案内所がほとんどないのが実情です。

そこで私たちは交番の活用を提案します。オリンピック誘致にあたって、東京の磁力を高めていくにも、外国人に対応する観光案内機能を交番に担ってもらい仕組みづくりを検討すべきです。観光マップの配布や外国語対応のホットライン電話を設置するだけで、交番は外国人観光客にとって逃げ込める案内所に様変わりします。幸い、昨今の警視庁では、OB警察官を交番相談員として採用している例が増えています。OB警察官の活用も検討できるかもしれません。こうした取り組みが必要ではないでしょうか。

## 8、東京の環境と景観を取り戻すー江戸の景観ルネッサンス

### ○ 2020年に東京の景観を取り戻す

1964年に開催された東京オリンピックに合わせて、首都高速道路が河川等の公共空間を活用して緊急に整備されました。急ぎ立てられた工事の犠牲として、日本で最も優美な橋と言われた日本橋が首都高の下に沈むことになりました。小泉政権下では地下化も検討されましたが、工費の高さから断念せざるを得ず、今なお日本橋の景観は失われたままです。一方、日本橋には栈橋が整備され、川辺から東京の景観を楽しむ観光客の入口になっています。首都高速に圧迫された日本橋は、急速に都市化した戦後日本の象徴的な存在です。三環状道路の整備が進むなか、首都高都心環状線の撤去が可能ではないかと言う議論が専門家間で始まっています。1964年オリンピックで喪失した景観を2020年オリンピックで取り戻す取組を検討すべきです。

### ○ 東京湾の水質浄化

東京オリンピックが実現した際、世界のトップアスリートを迎えるにあたっては、東京湾の水質浄化が欠かせません。世界に誇る最新の技術を駆使して、水質浄化を進めるべきです。

### ○ 川の再生

江戸時代の東京は、世界で最も美しい水の都の一つであったと言われ、東洋のベニスとまで比喻された江戸の風景は、ヨーロッパ人を唸らせました。しかしながら高度成長期において多くの川や小川は埋め立てや暗渠化され、その姿を消しました。その一つが神宮に届く古川です。神宮の杜から自然の恵みを運ぶはずの川がコンクリの下に埋まっています。高度成長とともに埋め立てられた水辺の復活を検討すべきです。

また、現在、隅田川ルネッサンスや運河ルネッサンスが、都政の重要プロジェクトとされています。このことから、オリンピックを機に、都内全体の河川・運河を美しい水路として復活すべきではないでしょうか。

### ○ 江戸情緒あふれるまちづくり

江戸時代はまさに日本史上、多くの文化が誕生し、花開いた時代です。武家文化はもとより、華やかな町人文化も江戸文化の象徴でした。当時の庶民は、絵娯楽というものを手にし、歌舞伎や文楽などの劇場も栄え、多くの俳優たちを輩出していました。また、相撲などの神事もこの時代の特色です。そして、浮世絵は、ヨーロッパの印象派に多くの影響を与えました。

そして、現在の東京でも、江戸開府以来のわが国の政治の中心地であった皇居周辺地域をはじめ、飯田橋や四谷などに残る江戸城の石垣、武家屋敷跡地として開放されている文化財庭園など、江戸時代の遺産がところどころに現存し、浅草の芝居小屋や仲見世通り、両国の国技館や相撲博物館など、下町の庶民文化が今なお息づいているのです。

東京のまちづくりを進めるにあたって、これら江戸時代から残る歴史的・文化的な建築物や建造物などを含めた景観を保全していくとともに、各地域の歴史的・文化的な特性を活かしたまちづくりを規制・誘導していく必要があるものと考えます。国際的な都市間競争が求められる中、オリンピックの招致活動を契機に、江戸時代から続く東京の歴史的・文化的な特性をさらにまちづくり施策の中で進めていくべきです。

## 9、エネルギー政策とオリンピック

### ○ 持続可能なエネルギー政策の提言

3.11以来、世界は大転換を余儀なくされた日本のエネルギー政策に関心を寄せ、立候補都市として日本がエネルギーの新時代を予感させる政策を示すものと大きな期待をしています。自然エネルギーの普及促進のみならず、革命的なエネルギー供給の在り方を日本が魁となって世界に提案できるように、スマートグリッド・エネルギーシステムの未来像を具現化することを求めます。

### ○ 大会開催中の車両は電気自動車に制限する

ポスト京都議定書の策定に向けた議論において、東京が招致を目指すオリンピック開催年の2020年を、CO2削減達成の中期目標年度とする動きがあります。2020年は各国にとっても、CO2削減の目標を掲げた節目の年になるであろうことから、東京は環境先進都市としての存在感を強く打ち出さなければなりません。特に、開催期間中に都市をあげてのCO2削減をいかに提案できるかは、招致活動に大きなインパクトを与えるため。大胆な提案が求められます。例えば、開催期間中に限り、環七以内の全ての車両は電気自動車でなければならないなどの規制は、電気自動車と充電スタンドの急速な普及をもたらすものと考えられます。環境先進都市としての施策を充実すべきです。

### ○ 最先端の省エネ技術のPR

昨今のオリンピックにおいて重要視されている理念の一つが「環境」であることは、これまでも指摘されてきました。世界が急速な都市化による環境問題に直面する中で、先進国が誇る省エネ・環境技術は諸都市から注目を集めています。特に、日本のメーカー各社が誇る省エネ・環境技術は、単体の商品だけではなく、建物全体での取り組みなど、組み合わせによる技術の集積が進んでおり、従来の省エネを覆すものがあります。

例えば、現在、公開されている某ゼネコンによる「超環境型オフィ斯拉ボ」は、CO2・50%抑制のオフィス環境を予感させるものです。こうした日本の技術を集積したショールームは日本の高い環境技術を体感できるものであり、各国IOC委員の関心と期待を集めるものと確信しています。こうしたショールームをロンドン五輪期間中のプレゼン会場に設置するなど、日本の高い環境技

術を世界に力強くPRするべきではないでしょうか。

#### ○ 震災対策や技術の発信を

地震大国日本では、震災に対する備えや技術も世界的に優れています。他国に対して震災対策や技術、ノウハウをPRすることで、日本で開催する意義が一層理解されるはずです。

### 10、都内の交通網をアピール

日本においては、JRや地下鉄の運行はほぼ定刻通りであり、この時間の正確さは世界に誇れると言っても過言ではありません。そのため、都内の様々な交通機関における遅延回数のデータなどを利用し、交通状況の良さを招致PRとして前面に出していくべきです。

### 11、日本をひとつにするテーマソング

東日本大震災を受けて、日本人の誰もが心に深い傷を負うとともに、絆を確かめ合い、助け合う心の大切さを学びました。震災を教訓にし、絆を深めるテーマソングを、オリンピック招致運動と連動させて制作することはできないでしょうか。マイケル・ジャクソンとライオネル・リッチーが共作した「We are the world」はアメリカ同時多発テロ事件後のアメリカで、復興への象徴的な曲として連日放送されました。震災から立ち上がる日本人の姿を描く復興ソングを作曲し、これをオリンピック招致のテーマソングにすることが出来れば、復興とオリンピックのコラボレーションが生まれるものと思います。

## 12、オリンピックの運営は、若者たちの「奉仕」で

多大な人気を博している東京マラソンは、自ら志願した多くのボランティアが参加し、運営が行われています。そこで、2020年のオリンピックでも、会場の運営、例えば、選手や車両の誘導、清掃などを、若者たちがボランティアで行い、オリンピックを盛り上げていくのはいかがでしょうか。

都立高校は現在、教科「奉仕」が必修で、多くの高校生が地域への貢献活動を行い、地域の方々から感謝され、奉仕することへの喜びを味わっています。また、東日本大震災では、多くの若者が自ら被災地に出向いてのボランティア活動や路上での募金活動を行うなど、その勇姿は感動的でした。

日本人の誇るべき思いやりと支え合いの精神を活かし、海外からの選手や観光客に対するおもてなしを若者たちのボランティアで行うことで、来日する海外の方々の中で驚きと感動が生まれ、それが若者達の自信につながっていくはずです。

明治天皇のご遺徳を永く後世に伝えることを目的とし、全国民から集めた寄付金と、有志で参集した全国青年団の勤労奉仕によって造成された神宮外苑に、若者たちが結集し、オリンピック選手や観戦者を「奉仕」でもてなすことは、神宮外苑の創建の想い、レガシーの引き継ぎになるという深い意義も見出せるため、実現を検討すべきと考えます。

## 13、ロンドンオリンピックが招致の関ヶ原ージャパンハウスは江戸情緒で

8か月に短縮された国際招致活動のなかでロンドンオリンピックの開催期間中に設営されるジャパンハウスでの招致活動の重要性が高まっています。ジャパンハウス内での招致活動にあたっては、東京オリンピックの意義を正確に伝えることが重要ですが、さらに重要なのは「日本に行きたい」「日本ならではのオリンピックを見たい」と思わせることではないでしょうか。これまでにも、本提言書で再三、日本人の文化的、精神的な美意識こそ、持続可能な社会づくりのヒントになると述べてきました。JOCとタイアップしたジャパンハウスにおいては、江戸から伝わる日本の美が、訪れた外国人客に伝わるものであってほしいと願います。

ジャパンハウスでの招致活動が、日本が誇る食文化をはじめとした多種多様な文化の発信の場となることを要望します。